

令和7年度第1回労働教育協議会会議録

1 開催日時 令和7年7月9日 午前10時00分から午前11時30分

2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第5委員会室

3 出席状況

委員 (10人)

坂部 友紀 委員	鈴木 慧史 委員	大橋 泰介 委員
三宅 賢三 委員	鶴見 英人 委員	楠崎 智絵 委員
加部 隆幸 委員	松本 政浩 委員	伊藤 祥 委員
平野 慎一郎 委員		

事務局 (5人)

労働政策課 課長	鈴木 利昭
専門官	白柳 健司
副主幹	増田 廉太郎
副主幹	内崎 哲
一般職員	河村 尚紀

欠席 なし

4 一般傍聴者 0人

5 議事内容 (1) 委員長、副委員長の選任について
(2) 令和6年度労働・雇用に関する事業について
(3) 令和7年度労働・雇用に関する事業について
(4) 意見交換・その他

6 会議録作成者 産業部労働政策課 一般職員 河村 尚紀

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・☐無

8 会 議 記 録

- 1 開会（労働政策課長）
- 2 委嘱状交付（産業部長）
- 3 あいさつ（産業部長）
- 4 各委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 委員長及び副委員長の選任について（労働政策課長）
（楠崎委員）

委員長に坂部委員、副委員長に鶴見委員を推薦

（委員全員）

意義なし

- 7 委員長、副委員長あいさつ
- 8 議事

（１）令和６年度労働・雇用に関する取組みについて

（増田副主幹）

資料に基づき説明。

【質疑応答】

（坂部委員長）

昨年まで実施していた氷河期世代を対象とした相談会やインターシップが終了しているが、縮小理由を教えてください。

（増田副主幹）

実績の減少及び、国の支援事業により、需要が満たされていると判断したためである。

ただし、就労に時間を要する方の支援のため、地域若者サポートステーションはままつ就職氷河期支援事業については、今年度も実施する。

（三宅委員）

全体として、前年と比較した数値は記載があるが、割合で評価している資料がない。割合での評価は実施しているのか。

（増田副主幹）

割合での評価はしていない。

（鈴木課長）

数字を示せるようにしていく。

（２）令和７年度労働・雇用に関する取組みについて

（増田副主幹）

新規・拡充した事業について、資料に基づき説明。

【質疑応答】

(鶴見副委員長)

文系女子活躍促進事業について、文系・ものづくりの女性を対象とした理由及び、本事業の目標を教えてください。

(鈴木課長)

浜松市は、高校から大都市圏の大学に進学し、卒業後は U ターン就職する人数が少ないという特徴がある中で、男性や理系のイメージがあるものづくり企業が文系の女性から就職先として選ばれにくいのではないかという考えから、事業を立ち上げた。

また、活躍している女性だけではなく、所属する企業の代表にも出演いただく予定である。

事業の数値目標は現在、定めていない。

(鶴見副委員長)

弊社も社長の特別授業に参加しているが、フィードバックがないため、学生がどのようなことに興味があるか、参加している他社がどのような講演をしているのかがわからない。次回に向けたアドバイスがほしい。

(内崎副主幹)

今年度からは、企業様による社長の特別事業の見学が可能であり、既に見学される社長様もいるため、ご覧いただければと思う。

※参考で事例紹介

(楠崎委員)

女性就労実態調査を行うということであるが、アンケート結果は広く公開するのか。

(内崎副主幹)

調査結果は、この協議会はもちろんこと、広く公開させていただく予定である。

(大橋委員)

勤労者住宅建設資金等償還利子助成事業について、近年、金利の上昇がある中で、今後、事業の拡大は予定しているのか。

(増田副主幹)

現在の実績では不足は見られないため、拡充の予定はない。今後不足するようであれば、拡大を検討する。

(平野委員)

労働雇用相談事業について、対面での実施は検討しているのか。

(増田副主幹)

対面実施を求める意見がないことや、スペースの観点から検討していない。

(鈴木課長)

相談者からすると、電話より対面のほうが良いのか。

(平野委員)

相談内容によるが、過去には対面を望む声もあった。

(鈴木課長)

状況を見ながら、電話、対面両方の実施を検討する。

(鶴見副委員長)

UIJ ターン就職活動応援事業について、申請額が補助限度額に届かないことを理由に宿泊費を対象に追加したと説明があったが、一人当たりの金額の拡大よりも多くの人に利用してもらえるようにすべきだと思うので、広報などにお金を使うのはどうか。

(鈴木課長)

本事業は本市が運営する就職支援サイト「JOB はま！」で紹介しているが、情報を受信する人のほとんどが市内の方であり、市外の方への情報発信が不十分である可能性があることから、今後、制度を知ってもらうためにも、広報に力を入れたい。

(内崎副主幹)

補助金についてはないが、浜松の企業 PR 動画の作成及び位置情報を利用した広報により、市内の企業 PR を実施している。

(鶴見副委員長)

UIJ ターンに関する話の中で、企業 PR 動画等について話があった。
予算上仕方がないことかもしれないが、事業がそれぞれ縦割りになっている感じがする。効率的に実施するためにも事業ごとのつながりも意識すべきではないか。

(鈴木課長)

整理していく。

(三宅委員)

若者は高校までのキャリア教育を終えて市外へ出ると、就職活動が始めるまで、浜松市の情報について触れなくなり、キャリア教育の空白期間が発生してしまう。高校等と協力し、卒業生に情報を伝え続けるとよいのではないか。

(内崎副主幹)

能動的に収集している学生以外へ情報提供する方法については、課題を感じている。

(加部委員)

現状、電気、機械系企業への女性進出は進んでいないように感じる。当校でも、女性学生が少ない現状が続いている。文系女子活躍促進事業のほか、若い世代がものづくりへの就職へつながる事業の展開を検討いただきたい。また、技術を学ぶために工科系大学等の進学が増加すれば、浜松の女性の流出を防ぐ循環が生まれるのではないかと感じている。

(坂部委員)

委員の所属では、女性が活躍するための取り組みや課題等はあるか

(鈴木委員)

小学校は女性が活躍しやすい職場という認識があるが、近年では、管理職の割合も増加している。3年前は25%だった女性管理職が令和6年度末では30%を超えている。一方、子育て、育休、産休については、課題を感じている。

(大橋委員)

女性が主体で構成される、働き方改革ワーキンググループと意見交換を行い、会社への要求に盛り込んでいる。会社の女性割合が少ないのもあり、管理職及び労働組合の役員の女性割合が少ないのが課題である。

(三宅委員)

工場のラインでは女性への重労働を軽減し、女性が活躍できる環境を整えている。事務職、技術職では今後活躍が見込まれる女性にヒアリングを行い、課題の洗い出しをするほか、女性管理職と若手女性との座談会を行っている。

(楠崎委員)

医療・福祉業種のため、従業員、管理職の女性割合が高い。会社に存在する制度の周知や、時短職員も仕事で成果を判断し、管理職への登用をしている。

(鶴見副委員長)

社員アンケートによる課題把握及び労働組合との調整を行い、休暇制度の見直し、低用量ピル代金の補助、オンライン診療サービス及び薬の郵送制度を整備した。また、管理職会議にて、女性に関する勉強会を実施している。

(坂部委員長)

管理職の割合を課題としており、意識の調整、表彰、採用比率の増加、テレワークやライフサポート休暇の範囲拡大等を行っている。結果2021年に6.6%であったが、3月には9.4%まで上昇している。しかし、生産職場での働きやすさ向上のための取り組みについては課題を感じている。

(加部委員)

当校は事務職員と指導員という2つの職種の職員が勤務しているが、指導員の女性のなり手がいないことを課題としている。事務職員は3割程度女性がいるが、現地採用のパート職員が多い現状である。

女性雇用の取り組みとして、ホームページにて、ものづくり女性を取り上げている。

(松本委員)

危険な現場へ向かうことも多く、退職してしまう女性が多いことから、女性の職員割合が少ない。労働基準監督を行う行政機関であるため、女性はもちろんのこと、男性の育児休暇も必ず取得させている。

(伊藤委員)

まず、ハローワークの事業を紹介させていただく。マザーズハローワークを設置し、育児、介護の両立支援等を行っており、セミナーやオンライン相談を実施している。ハローワーク内部では、採用比率や退職により、管理職の女性が少ない。

また、安定した職場であるため、管理職を目指す女性が少ないことも女性管理職

の低さの原因だと考えている。多くの事例を作り、現在の管理職の女性が特別という意識を変えていかなければならないと感じている。

(平野委員)

全国社会保険労務士会では、社労士認証制度というものが存在し、コンプライアンスや、女性活躍の項目があり、チェックを行っている。社会保険労務士として企業の方と接していくと、女性活躍について考え方の変化を感じている。

(3) 意見交換・その他

なし

9 閉会

9 会議録署名人

委員長 坂部 友紀

副委員長 鶴見 英人

